

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2671100101
法人名	医療法人 啓信会
事業所名	グループホームリエゾンくみやま
所在地 (電話番号)	〒613-0033 京都府久世郡久御山町林中垣内38-1 (電話) 0774-45-5100

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成22年3月2日	評価確定日	平成22年7月16日

## 【情報提供票より】(平成22年2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11	常勤	4人, 非常勤 7人, 常勤換算 6、8 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 25万円 ) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	650 円
	夕食	550 円	おやつ	110 円
	または1日当たり		1,660円	

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都きづ川病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームの前は「古川」が流れ、川に沿ったホーム前の道路幅は、隣の大型スーパーマーケットへの交通量の割には狭い。周辺環境は一戸建が多く、開設4年が経過するが、ホームはまだ町内会に加盟できていない。ホームは洋風平屋建て、小さく手作りの「グループホームくみやま」の表札があるだけで、施設といった印象はない。門扉の両側はパンジーが咲きそろい、知人の家を訪ねるような雰囲気である。建物に入ると、壁に絵画や、写真が架けられ、手作りのお雛様が飾られ、生花も豊富でインテリアも含め家庭的なきめ細かな配慮がなされている。ベランダ越しに芝生の庭、畑が見え、畑の収穫物はホームの食卓を賑わしている。職員は言葉使いも穏やかで、和やかに会話が交わされている。ただ職員異動が多く、調査訪問前日に管理者が交代されたばかりで、幸い開設当初から在籍されていた管理者との交代で、ケアの継続性は確保されると思われる。新しい管理者は地域との連携や、交流に関心を寄せられ、折しも地元の小学生14名の訪問があり、利用者のはじけるような表情が見られた。この表情に後押しされ地域と、ホームの友好的な交流の始まることを大いに期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>1、個別具体的な介護計画に繋がる日々情報の収集、介護計画の項目と日々ケアとの連動を意図した記録化に向け、2009年4月から記録様式を改善した。、2、リビングのレイアウトと、利用者の座席を変更し、利用者同士の関係づくりに変化をもたらした。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>常勤職員で作成し、結果を職員全員に提供している。調査報告書からは気づきを促され、職員会議で改善に向け検討がなされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者、家族、長寿健康課、地域包括支援センター、隣家の方がメンバーで隔月に開催し記録が残されている。ホームは何らかの地域貢献で、繋がりを強化していきたい意向を伝えている。町内会への入会も申し出ているが返事を得ていない。地域活動にはすすんで参加し交流機会を増やしたいとの姿勢に地元の幼稚園、保育園等との情報が交わされ、今後の展開が期待される。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営面というより、個人的な「お金のことは本人の前で口にしないで、本人が心配するので」、「もう少し塗り薬を続けて欲しい」、「受診同行を」といった要望は交わされ、話し合い可能な限り対応に務めている。意見箱は玄関に置かれているが、家族からの意見、要望は運営推進会議の場で発せられることもある。面会は少なくともなく、話し合いの時間を取るとともに、行事への参加を呼びかけ、この機会に家族との情報交換、要望・意見が聞ければと考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の福祉祭りには、作成した作品を出展し参加。ホーム前の古川の「古川をきれいにする会」に参加し、地域の人たちとの交流に努めている。参加賞の地元産「もやし」はホームでみんなで食べている。評価訪問時折しも近所の小学生が育てた水仙の鉢を先生に引率され届けに来ていた。花と、寄せ書きを受け利用者は嬉々とされ、近所付き合いの少ない中の明かりのように見えた。隣家には行事の折に案内している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり 一緒に ここちよくー 自然 共感 安堵」をホームの理念として職員で話し合い設けたものである。自然体、家族のような環境の中で、自分らしさを大切にしたいとの思いをこめ、玄関、談話室はじめホーム内のあちこちに額縁に入れるなどして張り出されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	～をさせられているとの思いを抱かせないよう、自由に過ごして欲しいというのが職員の思いであり、ケアの姿勢としている。利用者はホーム内を自由に行き来され、他の利用者とおしゃべりされている場面が見られる。利用者、職員の会話と共感が生活の中で重きを置かれている様子も職員ヒヤリング等から把握できる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の福祉祭りには、作成した作品を出展し参加。ホーム前の古川の「古川をきれいにする会」に参加し、地域の人たちとの交流に努めている。参加賞の地元産「もやし」はホームでみんなで食べている。評価訪問時折しも近所の小学生が育てた水仙の鉢を先生に引率され届けに来ていた。花と、寄せ書きを受け利用者は嬉々とされ、近所付き合いの少ない中の明かりのように見受けた。隣家には行事の折に案内を届けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常勤職員で自己評価は作成、職員全員に見せている。評価結果から気づきを促され、改善に向け職員会議で検討されている。リビングの机のレイアウトについてのアドバイスに、机の配置を変え、人間関係、食事の速度、移動の仕方等でグルーピングを考え、当初は利用者間で混乱もあったが、次第に落ち着き、新たな利用者関係を築ききっかけとなった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、長寿健康課、地域包括支援センター、隣家の方がメンバーで隔月に開催し記録が残されている。ホームは何らかの貢献をし、地域との繋がりを強化していきたい意向を伝えている。町内会への入会も申し出ているが返事を得ていない。地域活動にはすすんで参加し交流機会を増やしたいとの姿勢に地元の幼稚園、保育園等との情報が交わされ、今後の展開が期待される。		

京都府:グループホーム リエゾンくみやま

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場の担当者に相談したところイベント用具の調達に協力が得られた。介護サポーター研修の誘いにホームの家族を代表して参加した。町役場との連携は少しずつ出来てきている。	○	認知症ケアの経験を活かし地域住民対象に介護相談や、認知症理解と啓発のための研修企画を長寿健康課と協議してみたいかと思う。ホームならではの地域に役立つ取組にならないかと検討を期待したい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時、ふだんの様子を話すと、「このようなことができたのですか」と驚かれることがある。月1回写真の多いカラー刷りの「ほっと便り」を家族に届けている。家族には行事への参加を呼びかけているが、参加は限られた家族になりがちであるが、面会は多い。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営面というより、個人的な「お金のことは本人の前で口にしなくて、本人が心配するので」、「もう少し塗り薬を続けて欲しい」、「受診同行を」といった要望は交わされ、話し合い対応されている。意見箱は玄関に置かれているが、家族からの運営面の意見、要望は運営推進会議の場で発せられることもあり、検討に載せられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の新規事業立ち上げに伴い、今年も管理者の異動があった。後任者は在職の職員が引継ぎ、ケアの継続性は確保出来ているが、他に退職者4名があり職員の出入りは大きい。家族は申送り事項の徹底と、利用者にとって職員の何気ない言動に敏感に反応し、不安を募らせかねないと感じる声が寄せられている。	○	利用者への影響を考え、職員の配慮はもとより、現場の実情、対象者の特性を踏まえた組織、運営面の工夫や、対応策が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新任研修、ケア実務研修が法人の内部施設で行われ受講している。年間研修計画はある。管理者は職制レベルの研修に参加している。専門領域の研修はシフト調整をしながら努力しているが厳しい状況にある。資格取得研修は法人内外共に研修受講はできている。職員の年度目標にかかる個人面談は事業所内ではやられていない。但し法人全体の管理者(「センター長」)がスーパーバイザー的に必要に応じ相談援助がされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当ホームの近くに同法人の小規模多機能施設があり訪ねている。直近では 2010年3月1日に法人内3箇所目の羽東師グループホームが開設された。しかし広く同業者との交流や共通課題に対し勉強会や情報交換を持つといった機会は少ない。職員体制面で応援を貰っている現状もあり人的余裕に欠けているというのが大きなネックと考えられる。	○	グループホームや、ケアの質の向上には、他のグループホームから学ぶことは多く、この学んだことを運営や、ケアに役立てることは重要である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用相談があると、見学を勧め利用者・家族の意向を把握し不安な気持ちを受容する。ホームでは今までの生活に近い日々が送れるよう、親しんだ家具の持ち込みも可能であることを説明し、ホーム内や、利用者の過ごされている様子をゆっくり見てもらおう。利用当初の環境に馴染むまでは出来る限り寄り添い話をよく聞くように職員間で申し合わせしている。		
タイ的な					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	夜勤明けの職員に「気をつけや」と母親のような言葉がかかる。料理の仕方や、畑の世話では小言が飛んでくる。職員が洗濯物たたみや、お絞干しをしていると、手伝いの手があつまる。お茶碗を洗いながら経験談や苦勞話が語られる。このような中で生活歴や、その人なりの思い、考え方を感じ取り信頼や支えあいの関係が築かれていっていることが職員から聞いた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	様式改定したAサイズの個人記録シートには、上段に介護計画の項目、日々の血圧等のバイタルチェック、食事量、排泄記録等が書かれている。後段に日々の出来事が書かれているが、内容的に医療面や、夜間の行動等の特別変化した内容が多い。	○	当ホームは大変多く利用者との会話に時間を割いており、「あんただけにいわな」と言った個人的に聞かされている情報も多いが、記録化されていないことが多いように思える。生活歴の情報を充実させ、個々の利用者ならではの思い、関心等を引き出す工夫を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成会議は利用者、家族同席で開催している。排泄に関する計画等、利用者に直接聞かせることで不快感を抱かせるような内容などは、それとなく利用者には席をはずす配慮をしつつ、利用者のできることに、関心を中心に利用者・家族と情報交換し、介護計画に反映させようと努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングには、介護計画担当者、利用者担当ほか、原則職員全員が集まり、2009年度から様式変更した「個人記録」をもとに意見交換をしている。介護計画に沿った項目、たとえば「妻の見舞・安全な外出」、「モップかけ」といった具体的な項目の点検は出来ていても、その時々の内容のともなった記録が十分でなく、変化が読み取れない。	○	利用者の客観的な様子、表情や発言などを含めた内容の記述や、考察が日々の個人記録に記載されると変化もよみとれると考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	妻の病院見舞い、郵便局、墓参りと一人で行動できる人には、タクシーの手配や、道中・行き先の安全確保、調整等を支援している。「介護サポーター」の招聘、出張美容室の手配や、馴染みの美容室への送迎、誕生会・日々生活の楽しみメニューにボランティアの手配、法人内の病院、老人保健施設等と関係を持ち支援に備えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医について入居前の受診機関を継続している場合が多い。受診同行は原則家族が行っているが、緊急時には協力医療機関を利用している。認知症専門外来で受診している利用者もある。歯科医の訪問を受け一方、日々歯科医に受診同行している利用者もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームにおける終末期の取り組みについては方向性が定まっていない。ホームのお風呂がまたげなくなったら、当ホームの入所の限界かと考えている。医療連携の課題が大きく、家族にも持ち出しづらい心境にある。	○	終末期ケアに係る条件整備はじめ、取り組みについては、法人本部の考え抜きに着手できない。加えて職員の意識や学習も不可欠である。当ホームは現在比較的軽度の人の利用者が多い。事業所としては先を見越しての課題と考えられる。今後の取組を期待する。
<b>IV. その人 いではい</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に不適切な言葉使い、言葉かけについて指導がなされている。排泄、入浴ケアのときの声かけ、扉の開け閉めの対応など利用者の思いを汲み、職員は細心の注意を心がけている。居室に施錠がない。ノックや声をかけ居室に入っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則的な生活リズムは大切にしたいと考え、おおまかな1日の生活の流れは定めている。しかし起床、就寝時間の規制はない。レクリエーション、外出等強要はしない。ゆっくり話を聞くこと、散歩に行きたいなどの利用者の希望は大事にし、意向に即した支援に重きを置いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望も取り入れ食事内容については当ホームの自慢のひとつである。家庭的雰囲気のある食卓、味付け、彩りなど申し分ない。後片付けは利用者がさっさと動きなされている。買物は、隣のスーパーでほぼ調達し、調理は職員のローテーションで行っている。職員も利用者と一緒に和やかに食事を楽しんでいる。食事介助も丁寧に対応されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週3回、曜日、時間は定められているが融通は利く。入浴の雰囲気づくりに配慮し自分から入ろうとされるように支持している。入浴介助は同性介助で行い個室である。入浴に際しての羞恥心、プライバシーには十分配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好きなように、趣味、得意なことを中心に過ごされている。一方ホーム内の畑ではジャガイモ、さつまいも、大根、なす、きゅうりと種類豊富に栽培している。草抜き、みずやりなど、利用者がやれる仕事は少なくなっているが、収穫時の喜びは大きく食卓にあがると会話が弾み、世話をする職員もやりがいを感じ、利用者の口頭の指図に従い農作業に努力している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事に計画している平均月1回見当の遠出は、家族にも呼びかけ自動車を借り、四季折々の自然やイベントを楽しんでいる。日常的な散歩には積極的でない利用者も、雰囲気がかわると楽しそうに会話も多く、歩く距離もながくなり、いい運動になっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前は、隣のスーパーマーケットへの交通量が多い。したがって入口の門は安全上施錠している。ホームの敷地は広く、畑や庭に出、外気に触れることは可能である。中には外出しようとする利用者があっても、何かの思いあつてのことと、思いを汲む努力をし気分転換が図れるよう対応しようと考えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の方を招き、近隣住民にも参加していただき避難、誘導、消火訓練を行っている。夜間想定訓練も実施を予定している。隣家の方も訓練に関心を持たれ、実施の際の案内を求めて来られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に月1回食事をともにしてもらい指導を受けている。利用者の状態に合わせて食事量、水分摂取量、栄養バランスを相談し確認している。個々利用者にあった支援を大切に記録も残されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は、まだ真新しく、日当たりもよく、清潔であかるい。利用者の居室はリビングを囲むように配置され、それぞれ手作りの名札がかけられている。調理場はカウンター越し見渡せ、料理の香りも、調理場の様子も利用者、職員共十分把握できる。ランチョンマット、箸等利用者は手馴れた様子で取り出し準備も、かたづけもできる環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベット、クローゼットがホーム側で準備されている。利用者の使い慣れた家具等の持ち込みは少ない。ひ孫からの寄せ書き、手紙、誕生祝いのメッセージの色紙が壁に張られ、孫のアルバムを枕元に置き、家族に囲まれた温かさが伝わってくる。机にはテレビや、ラジオ、時計が置かれシンプルにまとめられている。		